



県民もがんばる水源環境保全・再生の取り組み

～市民事業支援補助金を生かして水源環境を守り、活性化させる～

水源環境保全・再生事業では、県民参加がひとつの大きな柱です。私たちの暮らしになくなくてはならない水源環境の保全は行政だけではなく、県民自らが主体的に行うことも大切です。新たに設けられた市民事業支援補助金は、保全活動を行っている市民団体を支援しています。初年度でもある平成20年度では32団体の応募があり20団体に交付されました。そのうち、今回は2団体の活動現場を訪れました。それぞれの市民団体は主体的に、元気に活動していますが、活動を継続するための課題もみられます。この補助金制度が、適切に、有効に活用されているかを中心にモニターしました。

<モニター事業の概要>

- かながわ水源環境保全・再生実行5か年計画での位置付け
 - 特別対策事業12「県民参加による水源環境保全・再生のための新たな仕組みづくり」
- モニター事業及び事業趣旨
 - 水源環境保全・再生市民事業支援補助金NPO等の水源環境保全・再生を目的とした活動に対して財政的支援を行い、水源環境保全・再生を県民とともに推進する。
 - ・平成20年度予算額 900万円
 - ・平成20年度交付決定事業数・団体数 36事業・20団体
- モニター団体
 - ①NPO法人 神奈川ウォーター・ネットワーク
 - ②NPO法人 しのかぼ



①酒匂川支流の水質及び水生生物調査事業の活動現場
酒匂川支流



②資機材の購入で力を得たNPOの森林整備現場
大井町篠窪地区里山



※水源環境保全・再生かながわ県民会議とは、水源環境保全税を使って行う施策に県民意見を反映させるために県が設置した組織です。一般県民・学識者など30名からなり、市民団体への支援や県民フォーラムの開催などを実施しています。このニュースレターは、委員が森チームと水チームを組織し、チームごとに現地に行き、県民の目線で事業をモニターした結果を、同じく委員で組織するコミュニケーションチームがまとめたものです。

事業モニターした県民会議委員の感想・意見

高橋 (弘) 委員 (公募委員)

補助する金額により「申請様式」「審査方法」「報告様式」を変えてもいいのではないのでしょうか。

金額が高額なものは現状のままでよいが、申請額が少額である場合は簡易な方法としてはいかががでしょうか。

高橋 (二) 委員 (公募委員)

酒匂川の源流域は、希少価値のある丹沢ヤマメやカジカ、アブラハヤなど生息する沢が悲鳴をあげています。開発か自然保護かと立場によって見解は異なると思いますが、今だから出来ることを行動すべきです。捕獲したのカジカに初対面しました。小さな命が次々と続くようにグループの活躍を祈念します。

長谷川委員 (公募委員)

地域に密着した活動団体では、日常の活動費も不足しがちな現状があります。そのため少額を出るだけ多くの団体に補助した支援事業は一定の評価ができると感じました。

しかし、同じ団体にずっと補助し続けることは難しい状況もあり、事業開発・運営のコンサルティングや流域共通の課題を共有する場の設置などにより、団体の自立を促すことが求められます。

真覚委員 (公募委員)

「NPOしのかぼ」発足から3年が経過した今、荒廃地に手が入り、整備・保全が進むにつれて、里山の風景が蘇りつつあるのを実感しました。地域の人々の環境意識も向上していると伺いました。しかし、手を緩めると自然が荒れた状態に戻るのも早く油断できません。保全・再生には協力者の確保はもとより「市民事業支援補助金」のような公的支援の継続は現場は強く望んでいます。

牧島委員 (公募委員)

資機材購入とチェーンソーの講習会開催等によって、間伐材の作業力は大幅にアップしました。この点ではNPO団体による地域水源林の整備は有効と考えます。しかし、規模は拡大していますが、支える担い手が地元から出てくるまでにはいたっていません。眺めのよさで3月のイベントには川崎・横浜方面から500人ほど集まりますが、活動への参加は皆無に近いそうです。「アイデアが必要」と繰り返し話される理事長の顔が印象に残りました。

増田委員 (関係団体代表)

荒廃した里山の事業現場は1.8haの広範囲に点在しています。補助金で購入したチェーンソーを使って間伐し、ロープで吊り上げてバックホーで運びます。不測の事故の際に、作業者がヘルメットで頭を守られた話を聞き、危険が伴う作業の厳しさを知りました。

また、関心の薄かった町民の方たちが整備された状況を見て、プラス思考に変化してきたことは、「NPOしのかぼ」にとって励みになるのではないのでしょうか。

全体のまとめ

柳川委員 (公募委員)

補助金の交付団体の人たちと会い、現地の活動の様子を見させていただき、この補助金が水源環境を守ろうとする市民活動の支援に大いに役立っていることが確認できました。

従来から森林、川の源流域の環境保全へ

の取り組みは志を高く持ったボランティア活動によって行われていましたが、今回の支援補助金制度が出来たことで市民団体の活動がさらに拡充しつつあり、時宜を得た効果的な施策と考えます。

気温2℃寒さのなか、こころざし高く調査活動

～生物多様性の堅持を求めて～

NPO法人 神奈川ウォーター・ネットワーク

- 事業概要（調査・研究事業）
酒匂川支流の水質及び水生生物調査と在来ヤマメの増殖試験を実施する。
- 補助金額（平成20年度）
20万円
- モニター箇所
山北町（酒匂川支流）



Q&A (Question & Answer)

Q.01 この補助金は、団体の活動に対してどのような効果を発揮していますか？

A.01 酒匂川支流A沢におけるヤマメ・ウグイ・アブラハヤ・カジカの4種の魚について生息をきめ細かく調査活動ができています。1月18日の調査では個体数ヤマメ10、アブラハヤ4、カジカ1などいずれも体長10cmの魚を捕獲・確認し、すべてリリースしました。

Q.02 酒匂川の支流で生物（魚類）調査する意義について教えてください。

A.02 酒匂川流域は神奈川県の水源地として保全が行われていますが、同様に生物多様性の保存の面からも大切な水域です。支流の溪流には丹沢在来系と推定される魚類の個体群の生息が確認されています。その実態を把握し、保存さらには増殖していきたいと思えます。



川底を丹念に探る調査活動
(許可された電気による捕獲)



あっ、いた！調査捕獲に成功



捕獲し調査したカジカ



現地で説明を聞く

地域に密着した荒廃里山の整備活動

～若人よ来たれ、自然を知ろう～

NPO法人 しのかほ

- 事業概要
 - ① 森林の保全・再生事業
資機材の購入事業
大井町篠窪地区周辺のクヌギ林の伐採作業等を実施する。(1.8ha)
 - ② 普及啓発・教育事業
大井町地域の人を対象に里山再生のための教育事業としてチェーンソーによる倒木作業の実務講習等を実施する。
- 補助金額（平成20年度）
 - ① 80万円(森林保全・再生事業30万円、資機材の購入事業50万円)
 - ② 20万円
- モニター箇所（事業）
大井町篠窪（森林保全・再生事業
資機材の購入事業）

Q&A (Question & Answer)

Q.01 この補助金の使い道はどのようなものですか？

A.01 ①チェーンソーや鎌の購入、作業機械のリース等に活用しています。
②これにより、少ない人員で作業効率が飛躍的に上がりました。また、危険な場所の作業や大きな木などを安全に伐採することが出来ました。

Q.02 里山の整備によってどのような町づくりを考えているのでしょうか？

A.02 三島神社の椎の木森を守ることで、また休耕地に菜の花を植えて農地を再生することにより、かつての美しい里山を再生したいと考えていますが、農地の活用については課題があります。



荒れ放題のクヌギ林や生い茂るツタを整備します



補助金でリースしたバックホーが大活躍

個人県民税の超過課税による水源環境 保全・再生への取り組み

県では、平成19年度から個人県民税の超過課税を県民の皆様へお願いし、納税者一人当たり平均して年額約950円をご負担いただいています。これによって、森林の保全・再生のほか、河川や地下水の保全・再生、ダム集水域での生活排水対策など「かながわ水源環境保全・再生実行5か年計画」（計画期間：平成19年度～23年度、事業費約190億円）に位置付けた12の特別対策事業※を推進しています。

※特別対策事業

次の事業（特別対策事業）について、モニターを実施しています。

- 1 水源の森林づくり事業の推進
- 2 丹沢大山の保全・再生対策
- 3 溪畔林整備事業
- 4 間伐材の搬出促進
- 5 地域水源林整備の支援
- 6 河川・水路における自然浄化対策の推進
- ・
- ・
- ・
- ⑩ 県民参加による水源環境保全・再生のための新たな仕組みづくり

(○印は今回モニターした事業)